SPECIAL Interview

特集

参画ってなあに？

今回の特集では、家事・育児・仕事も男女がともに分かち合える男女共同参画社会について考えます。

「社会de参画」では、男性が多い職場で活躍する女性として、いわき初のJR運転士の櫛田さんにインタビューしました。なりたい職業の夢を叶えた経緯をお話しいただきました。

「家庭de参画」では、男性の家事・育児時間の国際比較と、家事・育児時間が第２子の出生率に影響するというデータをご紹介します。

「参加」と「参画」どう違うの？

「参加」は、集団の一員として、みんなと行動を共にすることです。「参画」は、自分の意思により事業・計画などの立案、決定の場に加わることです。

社会de参画 Interview

夢をのせて。

【東日本旅客鉄道株式会社／運転士】

櫛田 裕子 さん
Kushida Hiroko

☑ 運転士になりたいと思ったきっかけは？

なろうと思ったきっかけは3つありまして、1つめは、この会社だからできるということ、女性も挑戦できるということです。2つめは、新しいことに挑戦することで自分を成長させていけるからです。運転士になるまでに駅の窓口と車掌を経験して、新たに運転士に挑戦して自分が成長できると考えました。3つめは、車掌をしていた職場に女性運転士の先輩がいらしたので、その方々の仕事を見て自分もやりたいと思いました。女性でも凛々しく歩いている姿とか、多くのお客様を乗せて一番前で運転している様子が格好いいなと思いました。

☑ 運転士になるまでの道のりは？

まずは、駅の窓口と、車掌の経験が必要でした。窓口で1年半くらい勤務してから、車掌の試験を受けました。車掌として2年勤務して、第1回目の運転士の試験の時、私はまだ、運転士の仕事は責任の大きい仕事なので、ちゅうちょして1年見送り、よく考えました。そして、車掌の仕事も好きだけれども、やはり運転士に挑戦してみたいという思いが強くなったので、3年目に運転士の試験を受けて念願の運転士になりました。駅の窓口の仕事をしていたから車掌が出来たし、車掌の仕事をしていたから運転士の仕事がより深く分かるようになったと思います。全部がつながっています。

☑ 仕事を通じて良かったことは？

私が最初に配属になった土浦駅では、一般のお客様から「女の人がいると明るく感じるよね」というお声を頂きました。その後、車掌になったときも、女性が入ることで雰囲気が良くなると言われました。
また、仕事が駅の窓口、車掌、運転士と変わってきて、全然違う仕事なので気持ちを新たに向き合えて、それぞれにやりがいがあります。また、新しいことを出来るのがとても楽しいです。

☑ 他に取り組んでいることは？

例えば、私は会社で男女共同参画のワーク・ライフ・プログラム推進員になっています。私たち女性が働きやすくなっているのは、会社が立てている男女共同参画のプログラムのおかげだととても感謝しています。プログラムの存在があって、育児休暇が1年から3年に延長され、復帰後の仕事の勤務形態も選べて充実してきていると思います。女性社員だけではなく、女性も男性も関係なく、仕事と生活を両立していくプログラムが推進されています。
今後は、介護休暇が身近になる人も増えてくると思います。産休とは違って、介護は急にくるものなので、そういう周知をしていけるように、育児と出産だけではない方向にもっていきたいと思います。

☑ これからの抱負・目標は？

女性が働くという状況が、まだ始まったばかりの大変なところを築いてくれた先輩方を見て、輝かしく尊敬できたので私も後輩にそういうふうに見てもらいたいなと思います。
結婚して、子どもが生まれても仕事は続けたいと思います。ここが自分の居場所という感じがします。

☑ 今の想いは？

男性の多い職場の中で、数少ない女性ですが、抵抗は少ないです。好きな仕事をやらせていただき感謝しています。この仕事をこれからも続けたいですし、私の頑張る姿を地域の皆さんに見ていただき、子供たちの憧れるような運転士になりたいと思います。
運転士の仕事は楽しいです。安全運転で夢を乗せていけるようにしたいです。

2012年12月19日（水）
東日本旅客鉄道株式会社
いわき運輸区